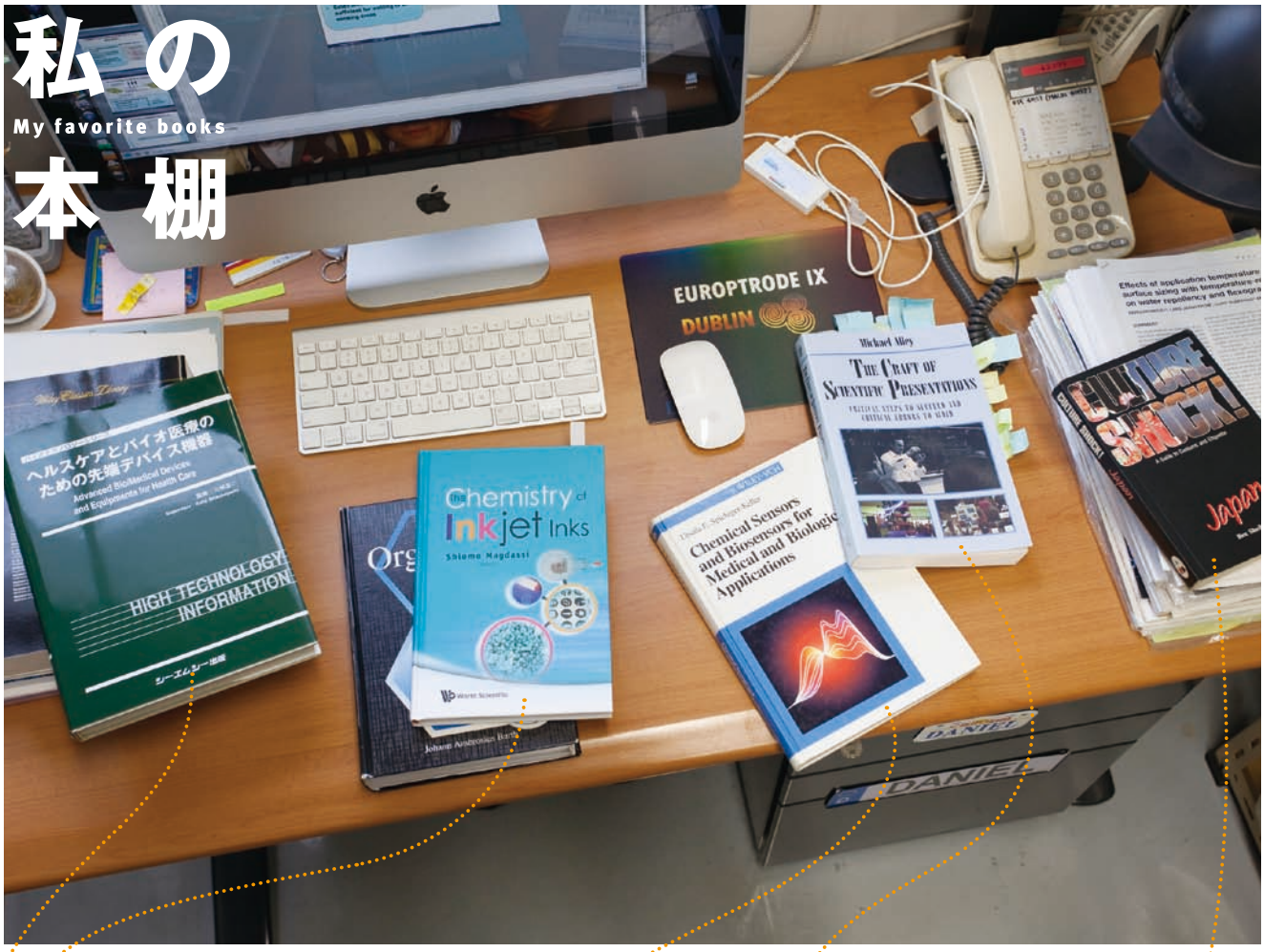
慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	私の本棚
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学理工学部
Publication year	2010
Jtitle	新版 窮理図解 No.5 (2010. 10) ,p.7- 7
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000005-0007

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

私の本棚
My favorite books



The Chemistry of Inkjet Inks　比較的最近本棚に追加しました。化学センサー開発を専門とする分析化学者として、インクジェットプリンターのインクに対する基礎知識が十分でないと感じていました。しかし、研究では化学センサーとして働く試薬が含まれた混合物から、インクジェットプリンターに適応可能なインクを作る必要があります。必要な知識を得るためこの本を購入しました。インクジェットプリンターで滴下可能な溶液を作るために必要なデータと、その特性がまとめられています。特許文献などの難解な資料をひもとかないと手に入れられないような情報が満載です。

ヘルスケアとバイオ医療のための先端デバイス機器　鈴木・チッテリオ研究室の卒業生がインクジェットプリンターによるヘルスケアチップについて研究成果をまとめていて、私の名前が（ひとつの章の）共著者になっている本。それぞれの章は、ヘルスケアの分野でまだ一般的ではないけれども、これからメジャーになる可能性のあるデバイスや技術について紹介しています。私たちのインクジェットプリント技術が、そのひとつになればと思っています。日本の大学、企業、研究所で行われている最新の研究動向を知ることができます。

Chemical Sensors and Biosensors for Medical and Biological Applications　私の研究分野ととても関連が深く、個人的な思い入れもある本。著者は私のETHZ（スイス連邦工科大学チューリッヒ校）時代の指導教官で、私が博士課程に在籍していた時に書かれたものです。そのため、私を含め当時の研究室仲間のほとんどが、実験データを提供したり文章を書いたりして関わっています。この本は博士論文を書き上げたときにその恩師からいただいたもので、私へのメッセージが書き込まれています。今も研究で使っている大切な本です。

The Craft of Scientific Presentations　学生・教員を問わず、すべての科学者にお薦めしたい本です。これを読むまで、システマティックな方法が“芸術的な”科学プレゼンテーションに通じるとは思ってもみませんでした。ためになるだけでなく、単純に読み物としても面白いです。自分のプレゼンテーションスタイルにおいて、科学的な話し方をするとき何をしてはいけないか、そしてスライドをどのようにデザインすればいいか、とても考えさせられます。私が受け持っている大学院生向けの授業「英語による科学プレゼンテーションと討論」では、この本を教科書にしています。

Culture Shock Japan　1996年、私が東京大学の留学生として初めて日本に来る直前に買ったものです。この本は、日本文化特有の慣習やふるまいになじみがない“gaijin（外人）”のために書かれたエチケットガイドです。日本に来てからの数カ月はこの本が実に役に立ちました。日本の結婚式に初めて出席したとき、この本を参照したことを覚えています。一方、日本で過ごすうち、すべてがこの本に書かれているように奇妙ではないことも分かってきました。この本の最後には、日本の慣習についてのクイズがあります。あなたの“日本人度”をテストしてみてはいかがですか？